



政策課題を「伝える」立場から「解決する」立場へ

サービス連合推薦候補者との対談 第2弾



後藤 常康
サービス連合 会長

徳永 エリ 参議院議員
(北海道選出)
サービス連合政策推進議員懇談会 副会長

対談にあたって これまでサービス連合は、サービス・ツーリズム産業の持続可能な発展のため、働くものの立場からの政策実現にむけて政治と向き合ってきました。来る第26回参議院議員選挙ではサービス連合「政策推進懇談会」の所属議員を重点候補として推薦しています。重点候補者の一人である徳永エリ参議院議員とサービス連合の後藤会長との対談を通じて、普段どのような政策に取り組んでいるか、そして目指すべき政治について伺いました。

リポーター時代の経験によって政治と関わる

後藤会長 本日はお忙しいところ対談のお時間をいただき、誠にありがとうございます。本日は取り組んでおられる政策についてお伺いしたいと思います。まずはなぜ国会議員になろうとしたのかをお聞かせいただけますか。

徳永議員 私は約30年間、メディアの世界で仕事をしており、東京では番組リポーターをやっていました。その後はハワイで観光と撮影のプロダクションに携わり、その時はハワイの結婚式でよく使われる長いリムジンカーの運転もしていました。そのままずっとハワイで暮らすつもりでしたが、あるきっかけで私の故郷である北海道に戻りました。そこで東京でリポーターをやっていた頃の私を知るUHB（北海道文化放送）のプロデューサーから声がかかり、テレビの仕事に復帰しました。この番組は社会問題をテーマにしながら、生の電話とFAXを使って直接視聴者となぎこコメントをするという番組で、時には涙を流したり、時には

視聴者の方と口論になったりするようなすごい番組でしたが、最終的には18年続いた高視聴率番組で、北海道の多くの方に見ていただけていました。私は取材の中でさまざまな現場の声を聞き、私たちの知らない闇や苦しみや社会に多くあることを知り、このままの政治ではだめだと感じました。国民のため、弱い立場の人たちのための政治ができるような政権に変わらなければならないと思い、私は民主党（当時）の支援者になりました。特定の政治家や政党を応援することをやりたがらないテレビ関係者が多い中、私は積極的に支援活動を行っていました。そのため当時から民主党とは非常に縁が深かったです。

一方で私は子育て中の母親でもあり、テレビの仕事だけでは不安な気持ちもありました。そのような中、時間が不規則なテレビの仕事とも両立できる仕事として、小さな飲食店の経営を始めました。そこで私は調理師やワインコーディネーターの資格を持っていることから、自分で調理し、お酒の提供をおこなっていました。その後、別の方のお店を引き継いで2店舗目を経営し、さらにテレビと子育てをすると、1日2、3

時間しか寝られない日々が続き、テレビの仕事をやめることを決意しました。それが2009年、民主党が政権を取った翌年のことです。その年の暮れにテレビの仕事をやめることを伝えるために民主党事務所へ行き、2010年に控える参議院議員選挙では精一杯支援すると伝えました。その後年が明けた年始に民主党から一通の封書が届きました。なんだろうと思って開封したら、次の参議院議員選挙に出てもらいたい、というものでした。忙しいからテレビの仕事をやめようと思っていたのと、子供も3月に受験を控えていたので、お断りをしました。しかしその後、突然マスコミからの取材を受け、その翌日ニュースになってしまいました。その時子供に対して、受験も近いのにごめんね、と謝ったところ、子供からは、自分は試験に集中するからお母さんは選挙やってみたら、と言われました。その時、仮に落選したとしても自分には店もある、しかも自分は民主党の支援者であり、選挙応援を北海道全土でやるつもりで取り組むだけだ、と納得し、出馬を決めました。自分は勝たなければいけない、ということはないので、本当に世の中の問題点を伝え、社会を救いたいという気持ちを持って楽しく北海道全土をまわりました。そうしていると札幌に帰るたびに支援してくれるボランティアの方が増えていき、結果当選しました。

後藤会長 長いレポーター生活の中で社会の不条理を感じ、訴えたい、変えたいことが国会議員になるきっかけだったということですね。

徳永議員 その通りです。本当は政権を取って、民主党を応援する立場でありたかったのですが、まさか自分が当事者になるとは思ってもいませんでした。そのような経緯のため、私は議員になりたいと思って立候補

補した以上に、議員になったことの責任を感じました。私みたいな人が本当に議員をやっているのか、と。能力や学歴が高いわけではなく、家柄がいいわけでもない、だから専門性を作らなければならず、人一倍努力しなければならなかったのが、最初の数年間は本当に大変でした。



第一次産業と北海道

後藤会長 そのような中で主たる政策として取り組んでいることはどういったものなのでしょうか。

徳永議員 やはり農業などの第一次産業、すなわち食糧安全保障と地域政策が主たる政策です。北海道は観光も重要な産業ではありますが、第一次産業が基幹産業であり、「食」という言葉にすると観光にも関係性が深いと思います。

後藤会長 昨年末から年始にかけて、牛乳が消費されず、大量に廃棄される恐れがある、というニュースを目にしました。なぜあのようなことが起きるのでしょうか。

徳永議員 誤った政策によって起こるものだと思います。2013年にダボス会議（世界経済フォーラム会議）において、当時の安倍首相は、農業改革として民間企業が障壁なく農業に参加し、需給のコントロールをせず、規模を拡大し、その中で競争をして勝ったものだけが残ればよいとの考えを示しました。あとは輸出の拡大をしていくということでしたが、輸出の拡大が実現しない中、人口減少にコロナ禍が重なり、需要過多になり、米価の下落、生乳の廃棄、砂糖の在庫過多が起きました。今度は作付面積の削減も求められ、政策に振り回されている状況です。また企業は農地法によって農地を所有することができませんが、兵庫県養父市を国家戦略特区に指定し、民間企業に農地を開放しています。しかし民間企業も参入できるようにするとWTOのルールで海外資本も参入できるようになり、食糧安全保障上の問題もあります。現在は国家戦略特区の延長によって先延ばしにしていますが、このままいくと2年後には企業に全面開放される可能性があります。

観光産業との関わり

後藤会長 お話を伺っていて、観光産業で起きている





ことが農業などでも起こっていることがわかりました。我々の産業である宿泊業でも資本の海外移転や海外ファンドの参入が増えており、特に北海道はそのようなケースが多いです。もちろん状況にもよりますが、オーナーの変更で考え方が変わると、環境が変わり、働くものの立場では困難な状況になることもあります。

徳永議員 私は飲食や観光も経験しており、これらの業界が大変な状況であることは認識しています。当たり前に旅行に行けなくなってしまった中で、旅行や環境がいかに関生活に潤いを与え、日々の活力になっていたかを改めて感じました。コロナとの付き合い方ははっきりすればまた旅行が活発に行われると思います。

国会議員としてのやりがい

後藤会長 国会議員になり、現在は国会という場から国や世界に対する貢献をされていることと思います。国会議員としてどのような時にやりがいを感じますか。

徳永議員 国会議員になって最初に感じたのは、多くの方が要請に来られ、さまざまな苦しみや悩みを抱えていることを知りました。まずは知ることから解決は始まっていきます。国会議員になって日本が抱えている問題を把握する機会をいただきました。すべてに対応することは難しいですが、参議院議員は6年の任期の中でそれぞれが専門性を発揮し、いただいた課題を解決できる瞬間があります。その時の喜びは大きく、また解決によって喜んでいただいた時のやりがいは自分自身の力になります。

後藤会長 国会議員でないとできないことですね。

徳永議員 国会法律の改正や、制度のおかしなところを正すことは国会議員でないとできないことです。冒頭でお話しした第一次産業以外にも人権や外国人労働者、多文化の共生、LGBTなど、日本には課題がたくさんあります。それを直していくためには世論を味

方につけて変えていかなければならず、そのためには国会での発言力など、力をつけていかなければなりません。

目指すべき政治のあり方

後藤会長 所属している党が与党から野党に変わった経験をお持ちですが、大変だったと察します。

徳永議員 与党の時は新人の一期生議員でも変えられ



ることが多くありましたが、野党となった後は議員ひとりの力で何かを変えるということは簡単ではなく、党全体が声を上げ続け、支援団体や世論を味方につけ、大きな盛り上がりにする必要があります。与党だけでは議論が十分ではないこともあり、違う立場でいろいろな角度からその課題についてしっかり議論をして、与党・野党を乗り越えた議論をすることが特にこれからの時代には必要です。これまで政治は目の前の課題をどう解決するかということだけで、今やったことが将来にどう影響するかということに考えがおよんでいません。これだけ社会が目まぐるしく変化していく中、将来世代の視点を入れながらいろいろな立場から考えて国会で議論しなければなりません。野党のあり方も考えていく必要があります。

後藤会長 緊張感のある政治のためには、二大政党制というカタチが目指すべき姿の一つだと思います。参議院議員選挙も控えていますが、ぜひ引き続き国政で活躍していただきたいと思います。

徳永議員 もし次の参議院議員選挙の結果引き続き国



政で仕事をするのであれば、それが私たちのやるべき仕事だと思います。個人としてではなく、組織として党の中でコミュニケーションをとりながら大きなかたまりを作っていく、信頼される政党にしていく努力が必要だと思います。

後藤会長 サービス連合政策推進議員懇談会の副会長を担っていただけていますが、北海道という地において、観光は基幹産業である第一次産業を支える立場でもあります。今後とも観光産業についてご指導、ご尽力をいただきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

徳永エリ 参議院議員 プロフィール



立憲民主党所属
北海道選挙区選出参議院議員

委員会では環境委員会委員長や政府開発援助等及び沖縄・北方問題に関する特別委員会委員を、また党内ではジェンダー平等推進本部長、孤独孤立支援PT座長、北海道総支部連合会副代表をつとめる。30年にわたるテレビリポーターの経験をもち、第22回参議院議員選挙（北海道選挙区）において初当選。現在2期目。

サービス連合 第26回参議院議員選挙 推薦候補者

重点候補



徳永エリ氏 北海道選挙区
サービス連合政策推進議員懇談会
副会長



伊藤孝恵氏 愛知県選挙区
サービス連合政策推進議員懇談会
幹事

連合組織内候補 推薦候補者



浜口誠氏
比例代表 国民民主党